

# 対水害 町内会は進む

2年前の鬼怒川水害で大きな被害を受けた常総市の根新田町内会が、町内に防災カメラを設置し、その映像やメールを駆使した自前の避難計画を策定して独自の水害対策に乗り出した。今年度は自主防災組織を立ち上げる予定で、市は他の町内会にも同様の取り組みを広げたいとしている。

常総・根新田



## メール、カメラ、自主防災組織も

根新田町内会では、2年

前の水害で多くの家が床上浸水したが、事務局が約百人の会員に携帯電話のショートメールで刻々と変化する浸水状況を伝えた。その数は50通にもなり、多くの町民が早めの避難ができ、けが人が出なかった。

ショートメールは町内行事を伝えるために、鈴木孝八郎区長(74)と須賀英雄事務局長(66)がメール送信業者の協力を得て、災害前から用意した。事前準備が大切だと気づいた鈴木区長らは1月、防災カメラを須賀

事務局長宅のベランダに設

置。2年前もあふれた千代田堀川周辺を20秒間撮影した映像を30分ごとに更新し、町内会のホームページでも見ることができるようにした。

さらに、国などが普及させようとしている市民一人ひとりが作成する事前避難行動計画「マイ・タイムライン」の町内会版を作成。「洪水警報」が出たら防災カメラの映像更新を5分ごとに早める。「避難準備情報」が出ればメールで避難を呼びかけ、町民から寄せられた避難路の渋滞情報なども送る。「避難勧告」が出ると避難を急がせるなど、事務局からの働きかけを時系列順に示した。

今年度には町内会で自主防災組織を立ち上げ、1人では逃げられない高齢者らの避難支援体制を作るといふ。このため、事務局に防災士の資格を持つ中根正市さん(46)とパソコンに詳しい宮川智敏さん(41)を迎えた。鈴木区長は「備えには日ごろからの近所つきあい大切。町内会に未加入の住民にも参加を呼びかけていきたい」と話す。



①自宅ベランダに防災カメラを取り付けた須賀英雄事務局長(いすけ ひでお)も常総市中委町  
②総会で住民らに防災カメラなどの活用を訴える鈴木孝八郎区長(右)ら